退任のあいさつ

土田　孝

令和元年 6 月 8 日の総会をもって広島土木会の会長を退任し，広島工業大学の森脇武夫先生にバトンタッチしました．2 年間会長職を務めさせていただきましたが，この間会員の皆様にご支援いただきましたこと深く感謝いたします．ありがとうございました．なお私事ですが，本年 3 月で広島大学を定年退職致しました．2003 年に着任してから 16 年間地盤工学研究室の教授として勤務させていただきましたがこの間，土木教室の先生方をはじめとして土木会の会員の皆様に多大なご支援をいただきましたこと，紙面をお借りして心よりお礼申しあげます． 4 月からは広島大学防災・減災研究センターの特任教授（工学研究科併任）として勤務しています．一年間の予定ですが，引き続きよろしくお願いいたします．

さて，この 2 年間会長として大した事はできませんでしたが，その中で総会を欠席された永年功績表彰の会員の方々に紀淳幹事長といっしょに表彰状をお届けにいったときのことが印象に残っています．住所を頼りに突然伺ったのですが丁寧に応接していただき，奥様と一緒に少しお話をさせていただきました．現役引退後も地域に根差して活動されているご様子で，あらためて土木技術者という職業のよさを感じました．これは自分自身が退職間近になっていて，退職後の生き方を漠然と考えていたからかもしれません．わが国はすでに超高齢社会になっており，政府からもここ 1，2 年「70 歳まで働こう」などのメッセージがしきりに出ています．このような時代において，同窓会には新たな役割がでてくるのではないかと思います．

70 歳あるいはそれ以降も働くとなると，最初に就職した 1 つの官庁，会社にずっと勤務するのではなく，これらを勤め上げた後に，各自の技術や経験を活かして他の職場で働くと予想されます．こうなりますと，多くの技術者が，所属する組織の中で活躍するとともに，現在の職場以外についても人間関係を構築して情報を収集し，自らの技術・スキルについて客観的な視点を持つことが必要になります．これまでもさまざまな事情や都合で職場を変わる場合があったわけですが，超高齢社会になることでほとんどの人がこの点を意識するようになることが重要と思います．同窓会の活動はすぐには見返りがないのですが，長い目でみると卒業生の縦と横のつながりによって土木分野の情報（インサイドの情報）をきわめて効率的に勉強できる場であると思います．卒業して社会に出ていく学生にもこのような同窓会の役割を伝えています．なかなか社会に出る前の学生には理解してもらいにくいのが実情ですが．

超高齢社会における同窓会の役割としてもうひとつ，母校における学びなおしのきっ

かけの提供ということがあるのではないかと思います．私の研究室では今年 4 月に松方健治さん（1984 年卒業）が博士（工学）の学位を取得され，9 月には山田義満さん（1982 年卒業，84 年修士修了）が博士（工学）の学位を取得予定です．お二人ともこれまでのコンサルタントとしての経験を活かした研究をまとめて学位を取得されましたが，卒業生として大学と交流することが社会人博士課程入学のきっかけになりました．お二人とも学位取得時には 50 代後半になっているわけで，ちょっと前の日本では「今さら取得しても」となったかもしれません．しかし，今後の超高齢社会の中で博士の学位を持つ技術者として長く活躍されると思います．なお，広島大学社会基盤環境工学専攻には実務者として経験を積んだ方を対象とした「ジェネラリスト博士」の制度があります．これは対象者の実務における業績を評価した学位取得基準であり，興味のある会員の皆様にはぜひお問い合わせいただきたいと思います．

あらためて 2 年間のご支援を感謝するとともに，今後森脇武夫会長を中心に広島大学土木会がいっそう発展し会員の皆様が元気に過ごされることを祈念して退任のあいさつといたします．